

数と計算②

第3学年

あまりのあるわり算

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

- あまりのあるわり算、あまりの意味を理解することができない。
- 文章題におけるあまりの処理の仕方を理解することができない。

1

問題：あめを1人3こずつ分けます。
あめ13こでは、どうなりますか。



わられる数とわる数、商、あまりについてどう関係しているんだろう。

「被除数＝除数×商＋あまり」の関係をとらえられない。

2

問題：35人の子どもを、4人がけのいすにすわらせませす。何きやくのいすがひつようですか。



どうして答えが1増えて9脚になるの？

あまりの人数をどう処理してよいか理解できない。

単元の概要

目標

わり算のあまりの意味を理解し、あまりのあるわり算の計算ができる。また、場面に応じて、適切にあまりの処理ができる。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- **あまりのあるわり算の意味と表し方**
(あまり、わりきれ、わりきれない)
- あまりはいつもわる数より小さくなること
- 場面に応じてあまりを適切に処理すること

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	分数÷分数	→ わる数が分数の場面を具体的にとらえられず、分数の除法の意味を式や図を用いて説明できない。
第5学年	小数÷小数	→ 小数の除法の意味を式や図を用いて説明できない。
第4学年	小数÷整数	→ わられる数がわる数より小さくなると、場面を具体的にとらえにくくなり、正しく図や式に表すことができない。
第3学年	あまりのあるわり算	→ あまりのあるわり算、あまりの意味を理解することができない。文章題におけるあまりの処理の仕方を理解することができない。
	わり算の意味	→ わり算の意味を理解することや等分除と包含除の違いを理解することができない。
第2学年	かけ算	→ 数のまとまりや「1つ分の数」と「いくつ分」の関係が理解できない。
第1学年	同じ数ずつ	→ 同じ数ずつ配るなどの場面が理解できない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

半具体物や図を用いてあまりのあるわり算の場面を理解する活動

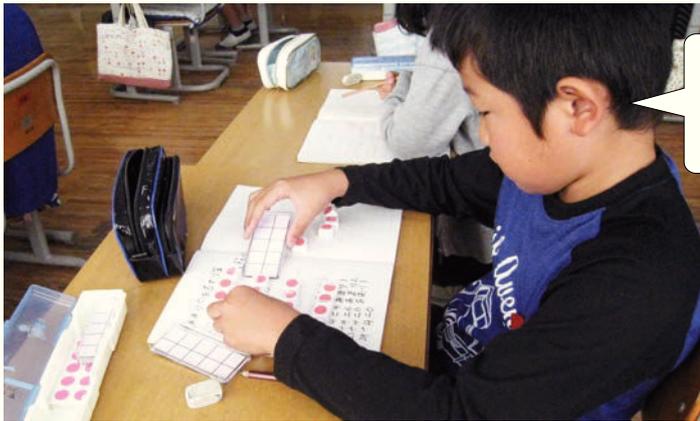
活動のねらい▶ ・あまりのあるわり算の意味、あまりの処理の仕方を理解する。

ここが
ポイント

- ①数図ブロックを操作させ、4人に分けられて1個あまることや、いつも必ずわり切れるわけではなく、あまりがでることがあることを確認する。
- ②数図ブロックの操作と「 $4 \times 3 = 12$ 」「 $13 - 12 = 1$ 」の式とを比較させ、あまりが1になることを確認する。

期待される児童の姿

あめを1人3こずつ分けます。あめ12こでは、どうなりますか。また、あめ13こ、14こでは、どうなりますか。



13個だと、4人分できてあめが1個あまった。
14個だと、4人分できてあめが2個あまった。

半具体物を使ったり図に表したりすることにより、問題場面をイメージでき、あまりのあるわり算の意味を理解することができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

立式を図や自分の言葉で表現し、自分の言葉で伝え合う活動

活動のねらい▶ ・場面に応じたあまりの適切な処理の仕方を、半具体物や図を使って表現し、言葉で表すことで、考えを確かなものにする。

ここが
ポイント

- ①数図ブロックを操作する際に、「みんながすわる」という言葉に着目させ、あまりを求めることを問われていないことを確認する。
- ②話し合いの前に、あまりの3人はどうするかに焦点を当てるよう指示する。

期待される児童の姿



$35 \div 4 = 8$ あまり3
8脚だと、あと3人が座れないなあ。

半具体物や図で表現し、それを用いて説明することにより、あまりの適切な処理の仕方を理解することができる。



全体での交流